

発見! おごおり遺産

No.10 市内の中世板碑

今回のテーマは市内の中世板碑です。板石に梵字を彫るといった比較的簡単な信仰方法には、どんな意味があるのでしょうか。



佐ノ古逆修一字一石・板碑



三沢日吉神社の板碑



千潟阿蘇神社の板碑

板

碑とは、五輪塔や宝篋印塔と同じ石塔の一種で、中世に多く作られた供養塔のことです。正しくは板石塔婆と言いますが、板碑の名前で広く知られています。通常は板状の石に梵字を刻むことから、梵字石と呼ばれることもあります。

板碑が作られた目的には、大きく分けて追善供養と逆修供養の二つがあります。追善供養とは死者の冥福を祈って供養することで、逆修供養とは建立者が生前の善行によって功德を積み、まだ生きているうちに自分やその家族の死後の安樂を願うことです。

小郡市内にも多くの板碑が見られますが、その代表例が吹上にある市指定有形文化財「佐ノ古逆修一字一石・板碑」です。指定されたのは「二つ塚」と呼ばれる2基の板碑のうち西側のもので、大きさは高さ85センチ、幅56センチです。碑には聖観音を表す梵字と銘などが彫られ、足元には一字一石経と考えられる大きさ5センチ程度の小石が多く見られます。銘によると、天文22年(1553)に「福田丹後守種秀」が、自らの死後の冥福を祈って逆修のため

に建てた一字一石塔であることが分かります。なお、東側の板碑は風化が進んでいるものの、彫られた銘から享禄頃(16世紀前半)に建てられたものと考えられます。

三沢日吉神社境内には「三沢支石墓」と書かれた史跡案内板があり、その側に巨大な板碑が立っています。彫られた梵字は、不動明王を表します。案内板にあるように、もともと弥生時代の墓の標石を板碑に再利用した可能性も考えられるでしょう。

千潟阿蘇神社境内には3基の板碑があります。彫られている梵字から、うち2基が不動明王を表し、1基が大日如来を表すことが分かります。

市内の板碑に彫られる梵字は、大日如来と不動明王が多いようです。大日如来は全ての苦難を除き、福德と長寿を授ける仏で、不動明王はその化身とも言われます。これら板碑が作られた時代は、戦乱の時代と一致します。不安定な社会状況の中、比較的身近な信仰方法として板碑が流行したと考えられています。

問合せ先 文化財課 ☎ 75・7555

おごおり遺産とは?》》近年の市内調査で「再発見」した文化遺産＝市民のたからのこと